

MOVING STRAIGHT AHEAD with OUR VISION

「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」へ

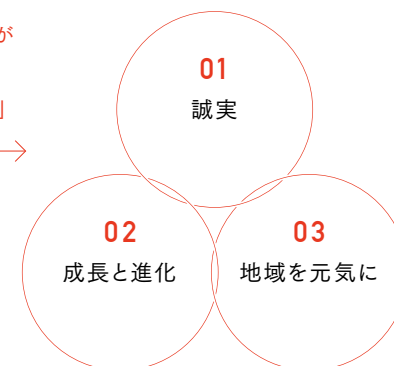


当社グループは、日本国有鉄道の分割民営化によって、1987年に発足しました。以来、強靱な鉄道づくりの実現に向けて着実に取り組むとともに、グループの総合力を活かして、様々な事業を通じたまちづくりを積極的に推進してきました。

その歩みの中で、当社グループの社員一人ひとりが常に立ち返るべき拠り所として大切にしてきたことが、「誠実」「成長と進化」「地域を元気に」という3つの「おこない」です。

これからも私たちは、この「おこない」とともに、まっすぐに、ひたむきに、「安全とサービスを基盤として、九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」を目指していきます。

JR九州グループが
大切にしてきた
3つの「おこない」



01

誠実

当社グループのDNAとして、これからもあらゆる行動の規範として継承すべきものは「誠実さ」です。

嘘や偽りやごまかしがなく、手間を惜しまず、お客さま、地域みなさま、お取引先、社員や社員の家族のみなさま、そして株主、これから当社グループに関わるすべての人たちのことを思いやり、正義と良心に従って行動します。

当社グループは、「誠実さ」により、安全をすべての事業の基本に置き、心のこもったサービスを提供していきます。



鉄道事業の競争力強化を推進

当社グループは、鉄道事業を中核事業とする企業グループとして発足しました。九州全域に鉄道網を有していますが、発足当初は他の交通機関と比較して競争力が劣っていたことから、鉄道輸送の最大の使命である安全を大前提として、速度向上やダイヤ見直しによる運行本数の大幅増、車両の更新などに積極的に取り組んできました。また、接客サービスの向上も強力に推し進めることで、ハード・ソフト両面で改善を図り、競争力の強化につなげてきました。

事業領域を着実に拡大

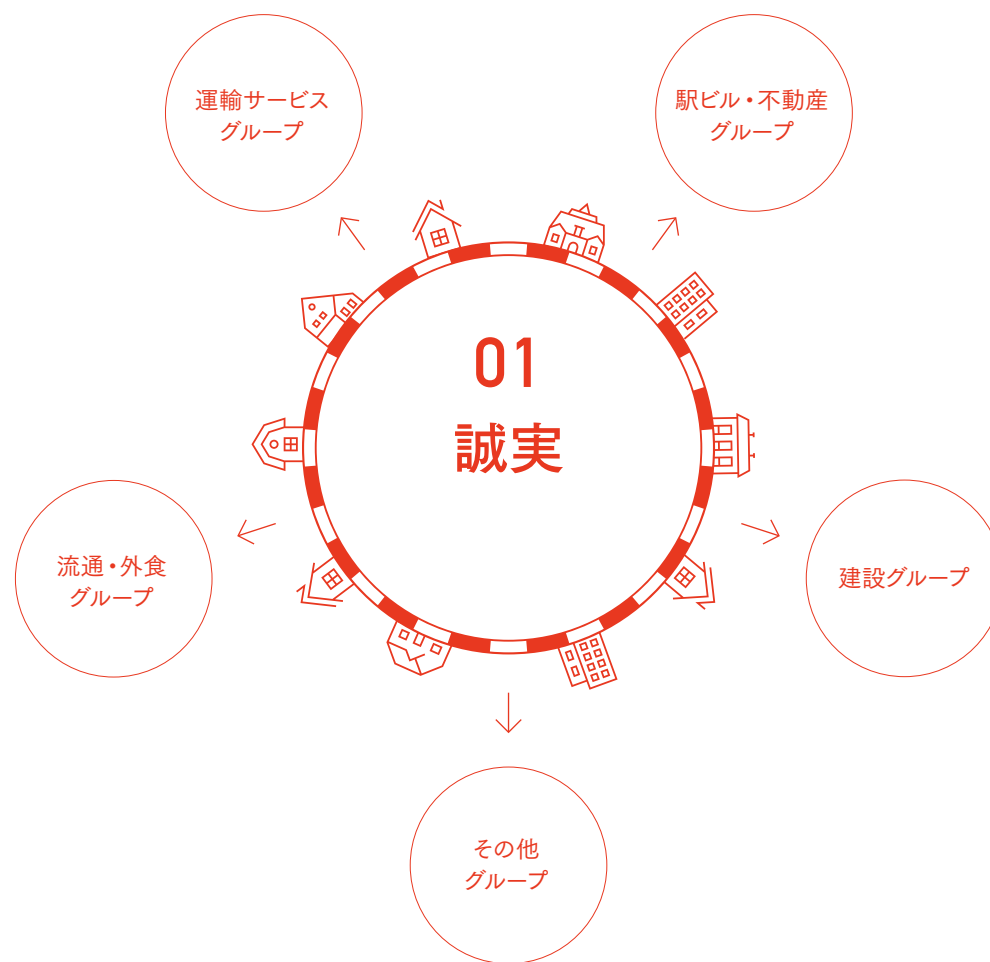
鉄道事業以外の事業については、発足当初は駅構内の直営店舗での流通・外食事業が中心でしたが、マンション事業や建設事業、船舶事業、ホテル事業、駅ビル事業など、鉄道事業との相乗効果が高い分野を中心にその事業領域を拡大してきました。近年では、企業買収や業務提携を活用しながら、介護事業をはじめ、ドラッグストア事業や農業といった新規事業にも積極的に挑戦しており、営業収益に占める鉄道旅客運輸収入以外の割合が6割以上を占めるまでに至っています。

あらゆる事業の基盤となる「誠実さ」

現在、当社グループの事業セグメントは、「運輸サービスグループ」「駅ビル・不動産グループ」「流通・外食グループ」「建設グループ」「その他グループ」に区分されていますが、これらに属するすべての事業を運営するうえでの行動の規範となっているのが「誠実さ」です。

「誠実さ」なくしては、お客さまをはじめ、当社グループに関わるすべての人々からの信頼を築くことはできません。私たちJR九州グループは、鉄道事業を通じて地域の皆さまからの信頼を着実に培ってきました。また、その信頼を源泉として、沿線で様々な事業を展開し、それによって鉄道のご利用を一層促進させるという好

循環の創出を図っています。さらに、「誠実さ」を基盤としてあらゆる事業を運営していくことが、当社グループ全体のブランド価値向上につながり、新たな事業領域への挑戦を実現する大きな推進力となっています。



02

成長と進化

当社グループは、情熱と勇気をもって、事業の規模を拡大していく「成長」と、組織や事業を変革させる「進化」を遂げていきます。異端を尊び*、挑戦をたたえる風土をつくることで、当社グループとともに社員一人ひとりも成長と進化を続けます。当社グループは、成長と進化により、新たなお客さまをつくります。

* 従来にはない新たな意見や考えなどをはじめから排除することなく、耳を傾け、成長と進化の「糧」にしようとする



収益の柱としての役割を担う九州新幹線

当社グループの「成長と進化」を象徴する出来事が、2011年の「九州新幹線全線開業」と「新博多駅ビル開業」という2大プロジェクトの完遂です。

九州新幹線は、博多駅から鹿児島中央駅間（288.9キロ）を最速1時間16分で結ぶ高速鉄道であり、その着工は1991年に遡ります。2004年の部分開業（新八代駅から鹿児島中央駅間）を経て、2011年に全線開業を果たしました。現在では、当社の経営基盤を支える重要な収益の柱としての役割を担っており、2018年3月期の新幹線鉄道旅客運輸収入は541億円と、鉄道旅客運輸収入全体の約3分の1を占めています。

駅ビルではなく、まちをつくる

当社グループは、1998年に初の大規模駅ビル「アミュプラザ小倉」を開業しました。2000年には「アミュプラザ長崎」、2004年には「アミュプラザ鹿児島」を開業し、いずれも全国で有数のショッピングセンターとなっています。

このように着実に積み重ねてきた駅ビル開発の集大成として取り組んだのが、「新博多駅ビル開業」でした。商業スペースの延床面積が約24万㎡に上るなど、これまでの駅ビル開発の枠を大きく超えた規模のプロジェクトであり、当社グループでは「まちづくり」と捉えて開発を進めました。この考え方は、新博多駅ビルに付けられた「JR博多シティ」という名称にも表れています。

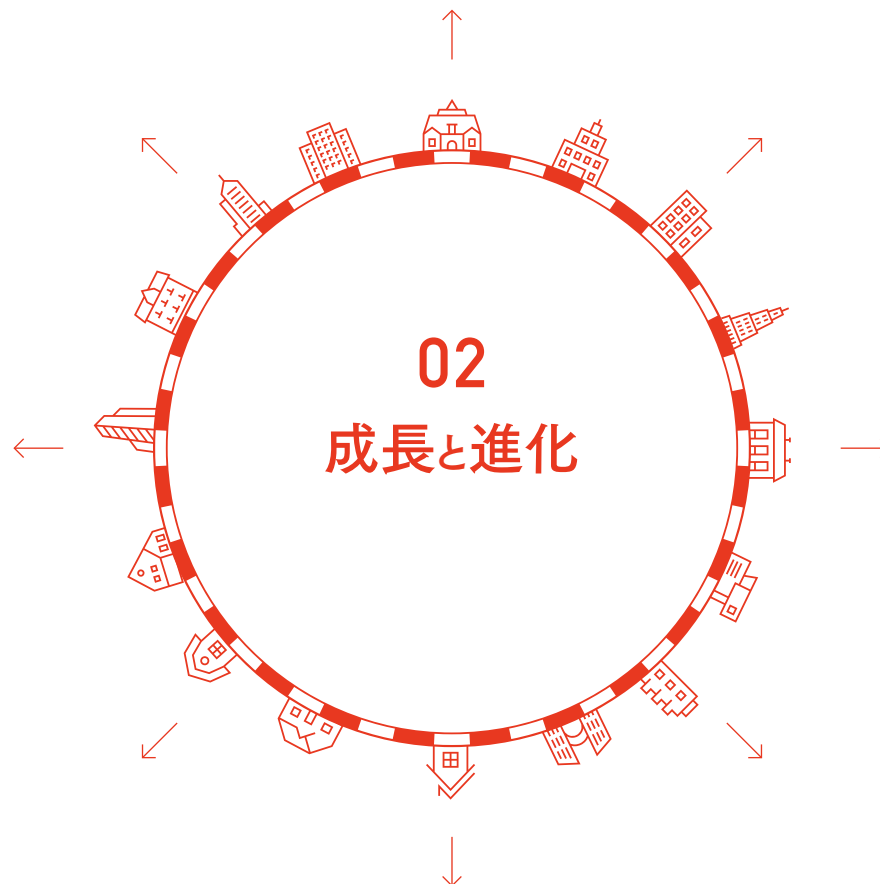
開業以来、多くの方々に訪れていただいております。年間入館者数*は7,000万人を突破しました。さらに、「JR博多シティ」の開発で培った「まちづくり」の考え方は、2015年に開業した「JRおおいたシティ」をはじめとしたその後の駅ビル開発などにも活かされています。

沿線外や九州エリア外へも事業を展開

駅や沿線を中心とした「成長と進化」に加えて、当社グループでは沿線外や九州エリア外への事業展開を進めています。2017年には、沿線外初の「まちづくり」として進めていた福岡市六本松地区の九州大学キャンパス跡地における再開発事

業が完成しました。また、九州エリア外では、首都圏で2002年に「赤坂うまや」（飲食店）、2014年に「JR九州ホテル プラッサム新宿」を開業し、2017年には、「JR九州ホテル プラッサム那覇」を開業しました。さらに、アジアでも事業を展開しており、2012年に中国・上海に「上海うまや」を開業したほか、2017年には、タイのバンコクでサービスアパートメント事業に参入しました。

* アミュプラザ博多、博多阪急、アミュエスト、博多デイトスの4施設合計の年間入館者数



03

地域を元気に

当社グループは、九州、日本、そしてアジアという地域を舞台に事業を営んでいきます。

地域の元気がなければ、当社グループが元気になることはありません。

当社グループは、よりよい交通ネットワークをつくり、まちをつくり、豊かな暮らしをつくることで、地域の元気をつくります。



当社グループは、鉄道事業をはじめとして、地域と密着した様々な事業を展開しており、地域の皆さまにサービスをご利用いただくことが、当社グループの発展には欠かすことができません。また、当社グループが事業を展開する地域の魅力が高まることにより、その地域を訪れる人が増えることにつながるため、地域の「にぎわい」は事業機会の拡大に寄与するものであると認識しています。

地域の魅力を発信

「D&S（デザイン＆ストーリー）列車」は、特別なデザインと、運行する地域に由来する物語（ストーリー）を有する観光列車であり、当社グループは現在11種類の列車を運営しています。それぞれの列車には地域の魅力を発信するための趣向が凝らされており、地域内外から高い評価を獲得しています。

さらに、2013年には、「九州の魅力を世界に発信する」ために、九州を周遊する日本初のクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」の運行を開始しました。九州の伝統工芸に彩られた豪華な内装をはじめ、九州の魅力を詰め込んだ周遊の旅となっており、運行開始以来、常に定員を大きく上回る予約をいただいています。日本全国にとどまらず、海外からのお客さまにも多くご利用いただいているほか、沿線に住む皆さまが「ななつ星 in 九州」に向かって笑顔で手を振る姿が各所で見られるなど、地域からも愛される列車として、九州の魅力を世界へと発信し続けています。

私たちJR九州グループの事業エリアは、九州のみならず、日本全国、そしてアジアへと広がっています。しかし、舞台は変わっても、その地域に元気がなければ、事業を持続的に成長させることができないことに変わりはありません。

これからも当社グループは、「地域を元気に」するために様々な取り組みを進めていきます。



中期経営計画2016-2018

MOVING STRAIGHT AHEAD toward OUR GOALS

やさしくて力持ちの “総合的なまちづくり企業グループ”へ

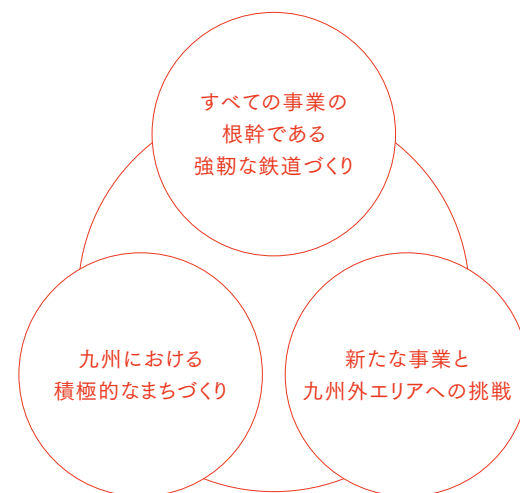
当社グループは現在、2017年3月期を初年度とする「JR九州グループ中期経営計画2016-2018」に取り組んでいます。この3か年を、様々な逆境にも負けず、お客さま、地域みなさま、お取引先、社員や社員の家族みなさま、そして株主、これから当社グループに関わるすべての人たちに貢献する事業活動を持続的に可能とする強固な経営基盤づくりをさらに加速させる期間と位置付けており、「やさしくて力持ちの“総合的なまちづくり企業グループ”」を目指しています。

その実現に向けて、当社グループは、すべての事業を支える4つの柱である「安全」「サービス」「人材」「デザインと物語」をより強固なものとし、右記で掲げる3つの重点戦略を積極的に推進することを基本方針としています。

2年目となる2018年3月期には、経営数値目標として掲げた連結営業収益4,000億円、連結EBITDA* 780億円を1年前倒しで達成するなど、着実に成果を上げてきました。

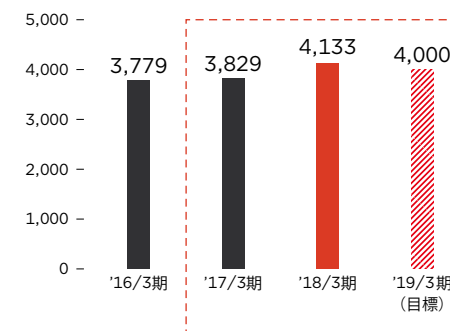
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費を除く）

3つの重点戦略



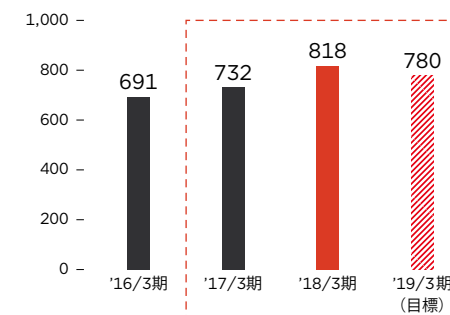
すべての事業を支える4つの柱

連結営業収益 (億円)



中期経営計画期間

連結EBITDA (億円)



中期経営計画期間